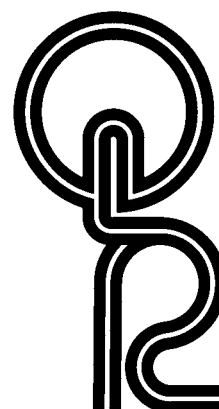


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 21 No.2, 2014



ブルン松山境界を含む上総層群国本層の露頭。地磁気逆転を記録した地層であることを示す説明板（中央左）とともに古地磁気測定層準に測定結果ごとに色分けされた札（中央右）がかかっている。さらに多くの研究用試料が採取された痕跡が認められる。第四紀通信 Vol.20 No.4（2013年8月発行）の表紙写真参照。（撮影者：齋藤めぐみ）

Vol. 21 No. 2

April 1, 2014

2014年大会案内（第2報）	2
学会賞・学術賞受賞者講演会のお知らせ	5
学会賞受賞者講演会の報告	5
日本地球惑星科学連合2014年大会プログラム	7
INQUA 募金口座の訂正	11

AIQUA フィールドワークショップのお知らせ	12
メーリングリスト登録のお願い	15
2013年度第2回評議員会議事録	15
2013年度第4回幹事会議事録	19
会員消息	19
国際会議のお知らせ	20

◆日本第四紀学会 2014年大会案内（第2報）

<大会の概要>

1. 大会名称：「日本の第四紀研究最前線— 2015年 INQUA 名古屋大会へ向けて」

日本第四紀学会 2014年大会は、日本の第四紀研究の現状と課題について、幅広い分野を対象として、国際的視野から活発に討議する場となることを目指します。INQUAの5つのコミッションと日本第四紀学会研究グループのリーダーが中心となって、幅広い分野のシンポジウムセッションを開催し、招待講演を充実させます。一般発表セッション（口頭およびポスター発表）も通常大会と同様に受け付けます。口頭発表に関しては3会場で最大3つのパラレルセッションを行う予定です。2015年 INQUA 名古屋大会のプレ大会にふさわしい充実したプログラムにすべく準備中ですので、会員の皆様の積極的な参加・発表をお願いします。

2. 日時・開催場所：2014年9月6日（土）～9月9日（火）
東京大学柏キャンパス（柏市柏の葉5-1-5）

3. 日程：

- 9月6日（土）シンポジウム・一般研究発表（口頭およびポスター）・評議員会
- 9月7日（日）シンポジウム・一般研究発表（口頭およびポスター）・総会・懇親会
- 9月8日（月）シンポジウム・一般研究発表（口頭およびポスター）
- 9月9日（火）見学ツアー

4. 発表の申し込み締め切り：2014年6月30日（月）

講演要旨（口頭・ポスターとも）は、シンポジウム、一般発表ともに、A4サイズ1ページ（図表掲載可）とします。詳しくは4月下旬掲載予定の学会ホームページ、学会メーリングリスト、および次号の通信（6月1日発行予定）をご参照ください。申し込み時に、発表希望セッションと様式（口頭・ポスター）を申請いただく予定です。多数の講演に対応できるよう会場を準備しますが、シンポジウムセッションの講演公募に申し込みされる場合は、シンポジウムのポスター発表、もしくは、一般口頭発表に変更させていただきます場合もございますことをご案内させていただきます。

5. シンポジウム

2014年2月現在、以下の5つのシンポジウムの開催が決定しています。いずれのシンポジウムも招待講演と公募講演を予定しております。追加のシンポジウムおよび、各シンポジウムの招待講演等の詳細については、4月に掲載予定の学会ホームページ、および次号の通信をご参照ください。

シンポジウムⅠ「下部—中部更新統境界 GSSP（仮題）」

世話人：岡田 誠（茨城大学）、風岡 修（千葉県地質環境研）、三田村宗樹（大阪市立大学）

主 旨：下部—中部更新統境界の GSSP については現在、IUGS-ICS で検討が行われつつあり、候補地として日本の千葉セクションおよび南イタリア 2 箇所の計 3 箇所で検討されつつある。

2015 年の INQUA 名古屋大会へ向け、千葉セクションの古地磁気層序及び堆積過程等の再検討が求められており、関連する問題について議論する。

シンポジウムⅡ「更新世・完新世の資源環境と人類（仮題）」

世話人：小野 昭（明治大学）、工藤雄一郎（国立歴史民俗博物館）、辻 誠一郎（東京大学）ほか
セッションの構成：

- 1) 旧石器
- 2) 縄文時代
- 3) 人類の活動と人為生態系

主 旨：後期更新世から完新世にかけて、人類が周辺の資源をどのように多面的に利用して自然環境の激変に適応してきたのか。それを旧石器時代と縄文時代の調査事例から具体的に復元することを試みる。自然と人類の相互関係のダイナミクスは一般論でなく、あくまでも具体的な事例の中に ad hoc な特性と共通する傾向をよみとることが必要である。身の回りの自然環境から何が当時の人類にとって資源となり得たかは歴史的に変化してきた。この点は今後のわれわれに示唆を与えるものである。発表は公募も取り入れて組織する予定である。

シンポジウムⅢ「プレート沈み込み境界における古地震・津波研究（仮題）」

世話人：藤原 治（産総研）、吾妻 崇（産総研）ほか

主 旨：地層、地形、遺跡などに残されたプレート沈み込み境界で発生した古地震・津波の痕跡についての研究発表を募集する。地層自体の研究はもちろんであるが、こうした痕跡と、地形や

地層の発達との関係、あるいは人の暮らしとの関係についても発表を募集する。また、これらの研究を、地域の防災、街づくりなどへの取り組みにどう生かすかといった行政やメディアなどからの講演も歓迎する。

シンポジウムⅣ「東アジア～北西太平洋域における第四紀の気候と環境変動（仮題）」

世話人：公文富士夫（信州大学）ほか

セッションの構成：

- 1) 東アジア～日本の湖沼堆積物からの気候変動
- 2) 日本海～北西太平洋の海洋の古環境変動
- 3) グローバルな古気候指標との比較と統合（氷床関係と気候モデルを組み込む）

主 旨：日本の研究者が東アジアから北西太平洋域でこれまで蓄積してきた気候や環境変動の資料を総合的に提示し、そのまとめの方向を出して、グローバルに発信する準備の場としたい。

シンポジウムⅤ「第四紀の海水準変動と地球表層プロセス」

世話人：横山祐典（東京大学）、宮入陽介（東京大学）、須貝俊彦（東京大学）ほか

主 旨：第四紀の特徴は氷床の消長に伴う大規模な環境変化であり、侵食や堆積プロセスといった地球の物質循環の駆動に大きな役割を果たしている。本セッションでは、海洋や陸水の地形や地質データに残る地球化学的指標等を用いた過去の環境記録と、テフラや第四紀後期年代測定法を用いた年代決定手法に基づいた研究について幅広い視点から成果発表を行い、総合的な理解を深める場としたい。

6. 巡検の概要

9月9日東大柏キャンパスと産業技術総合研究所つくばセンターの第四紀年代測定施設を中心とした見学ツアー（案内者：横山祐典（東京大学）・田村 亨（産総研）ほか）（日帰り）を企画しています。詳細と申し込みは4月に掲載予定の学会ホームページ、および次号の通信をご参照ください。

7. 大会実行委員会

実行委員会委員長：辻 誠一郎

実行委員：阿部彩子、小口 高、川幡穂高、斎藤文紀、須貝俊彦、田村 亨、横山祐典

連絡先：2014年大会実行委員会事務局

〒277-8563 千葉県柏市柏の葉5-1-5

東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究系

大会用E-mail：準備中です。学会ホームページをご覧ください（4月下旬）。

<発表の申し込み>

1. 一般研究発表の申し込み

1) 発表者の資格と発表件数の制限

一般研究発表には、口頭発表とポスター発表があります。筆頭発表者（資格は会員であること）は、口頭発表およびポスター発表について、それぞれ1人1件の発表が可能です。

2) 発表の形式と発表時間

発表申し込み時に、口頭発表かポスター発表か、もしくはどちらでも良いか希望をうかがいます。また、発表件数によっては、必ずしも希望の発表形態にならない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

口頭発表の時間は質疑応答時間を含めて1件15分程度を予定しています（発表件数によって変更の可能性あります）。十分な説明や討論を希望する方にはポスター発表への申し込みをお勧めします。またポスター発表者には、ポスターの前で説明するコアタイムを設ける予定です。

3) 若手発表賞へのエントリー

本会会員で大会時39歳以下の方は、発表形式・テーマにかかわらず若手発表賞にエントリーすることができます。エントリー希望の方は、申込書の若手発表賞エントリー欄の該当箇所記入して下さい。積極的なエントリーを期待しております。授賞式は懇親会で行います。

4) 発表申込書と講演要旨の送付方法および締め切り

一般研究発表の希望者は、日本第四紀学会ホームページ（<http://quaternary.jp/index.html>）の大会・総会の2014年大会のサイトの「発表申込書」と「講演要旨の原稿」に関するリンク部分からファイルをダウンロードし、必要事項を記入の上、以下の案内にそって申し込みを行ってください。（後述の「3. 講演要旨の原稿の書き方」も御覧ください）

・申し込み締め切り6月30日（締め切り厳守）。講演要旨原稿は1ページで執筆。

- 要旨原稿は添付ファイルとして、発表タイトルごとに別々のメールで送信する。送付先は専用アドレス jaqua2014(at)gmail.com (at を @ にかえる)。
- メール の 題名 は 「一般発表申込_筆頭発表者名」とする。2 件申し込む場合は題名の後ろに A、B をつけて両者を区別する。
- 添付ファイル名は「講演要旨_筆頭発表者名」とする。2 件申し込む場合はファイル名の末尾に A、B をつけて両者を区別する。
- 手書きによる原稿、および郵送による投稿の方は上記専用アドレスにお問い合わせください。

5) 知的財産権に関する講演要旨執筆上の注意点と同意の方法

発表申し込みの際には、本発表申し込み末尾の「4. 講演要旨執筆上の注意」を熟読の上、その内容を理解し、遵守するようお願いいたします。このことについての同意の意思表示は、申込書該当欄に氏名を記入（入力）することで成立することとします。

2. シンポジウム依頼講演者の講演要旨の送付方法および締め切り

シンポジウムはすべて依頼講演形式とします。シンポジウム依頼講演者の方は、前述の「4) 発表申込書と講演要旨の送付方法および締め切り」、および後述の「3. 講演要旨の原稿の書き方」を参照して講演要旨をお送り下さい。原稿枚数は1 ページでお願いします。メールの題名およびファイル名は「シンポジウム講演要旨_筆頭発表者名」として下さい（6月30日締め切り）。

3. 講演要旨の原稿の書き方

今大会では、要旨原稿を学会ホームページからダウンロードしたテンプレートに上書きする形で作成できるように準備をすすめています。詳細は4月に掲載予定の学会ホームページ2014年大会のサイト、および次号の通信をご参照ください。学会メーリングリストでもお知らせします。

4. 講演要旨執筆上の注意

2014年3月現在、講演要旨の著作権につきましては、厳密な規定がありません。そこで、現段階では基本的には発表者の方に著作財産権があるものと判断します。一方、昨今の知的財産権をめぐる情勢から見て、送付いただいた講演要旨に図の転載許可が得られていないものや、文献の引用が不十分なものがあると、問題が生じる可能性があります。従いまして、以下の点についてご注意の上で執筆下さるようお願いいたします。なお、これらに照らし合わせて問題があると判断された講演要旨原稿については、原稿受付後であっても再提出を求める場合があります。

- 1) 既存の出版公表物などに対する知的財産権へのいかなる侵害も含まないこと。
- 2) 他から転載されている全ての図表について、転載許可を得ていること。
- 3) 他の論文等の引用がある場合には、当該文献を全て明記する。引用形式としては、「竹内ほか（2005）第四紀研究，44，371-381.」などのように、引用箇所が判別できる限りにおいて簡略化して構わない。
- 4) 日本第四紀学会の名誉を傷つけ、第四紀研究の信用を毀損する盗用データ、捏造データ、その他、当学会の倫理憲章に反するものを含まないこと。
- 5) 講演要旨についての問い合わせ、苦情、紛争などが発生した場合、発表者はすべての責任を負うこと。

◆日本第四紀学会 2013年学会賞・学術賞 受賞者講演会のお知らせ

期日：2014年6月7日（土）13時～16時頃（一般公開、参加費無料、申し込み不要）

会場：名古屋大学大学院環境学研究科 環境総合館レクチャーホール

（会場詳細は <http://www.env.nagoya-u.ac.jp/contact/map.html> を参照ください）

後援：名古屋大学大学院環境学研究科

学会賞受賞者講演

海津正倫会員 講演タイトル「沖積低地の過去を知る」

（受賞件名：沖積低地と自然環境変化に関する一連の研究）

学術賞受賞者講演

久保純子会員 講演タイトル「河川と平野の地形からみえること」

（受賞件名：河川地形環境の変遷に関する研究とその多面的な応用）

中川 毅会員 講演タイトル「年縞研究の20年：より正確な時計を求めて」

（受賞件名：後期更新世における古気候学、年代学の高度化への貢献）

各講演は45分程度を予定。タイトル等当日の詳細は学会ホームページ、メーリングリスト、次号の通信を参照ください。なお、講演会と同日に評議員会を同施設にて開催する予定です。

◆2013年学会賞受賞者講演会報告

2014年2月2日（日）に、日本大学文理学部において2013年学会賞受賞者講演会が開催され、岩田修二会員による「転向点にたつ氷河地形研究」と陶野郁雄会員による「砂と粘土の四方山話」の講演がおこなわれた。（受賞件名・理由は第四紀通信 Vol. 20, No. 5 を参照）

岩田修二氏講演の報告

鈴木輝美（専修大学・4年生）

本稿では、岩田先生のご講演「転向点にたつ氷河地形研究」について、その内容を簡単に紹介する。

岩田先生は日本をはじめ、ヒマラヤ、南極など世界各地の山岳氷河・氷床やその周辺地域をフィールドとして、氷河地形や周氷河地形に関する研究を進めてこられた（ヒマラヤやアンデスでは地誌や環境誌に関するフィールドワークも経験されている）。長年にわたるこれらの研究と学界への貢献が、今回の受賞理由である。しかし、その氷河地形研究が、いま、大きな転向点にあると先生は冒頭から述べられた。日本アルプスにおいて今まで氷河性と認識されてきた地形や堆積物が地すべり性の地形や堆積物であると再認定されつつある事例をあげ、氷河地形・氷河堆積物が否定される例が各地で見いだされることによって研究の方向性が変わる可能性があることを先生は指摘された。日本のみならず、世界には氷河地形と地すべり地形が重複している例が多いという。地形や堆積物の成因を正しく識別するためには、現地で地形・地質を見て、研究者同士がその場で議論することが重要だと強調された。

次に、地球環境変動の研究手段として氷床コアと海洋底コアが主流となったことに対して、氷河変動も依然「使える」との見解が示された。特に、完新世においては、山岳氷河の変動は日射量の変化に忠実であり、ローカルな気候変動を反映していることがご自身や他の研究者の調査により明らかとなってきたとされた。また南極では氷河地形

の研究により新生代の氷河変動が明らかになりつつあることや、最終氷期における氷河変動の地域差とその特徴、時間的周期性なども明解にレビューされ、議論・論争の経過が平易に解説された。氷河・氷床変動はローカルあるいは半球規模の地球環境変動を明らかにするための重要な手がかりであることに変わりはなく、山岳氷河および南極氷床の研究を継続していくべきだと先生は強調された。先生は、南半球・北半球間で氷床・氷河変動の地域差がなぜ生じるのかについてかねてから関心を抱いており、可能であればご自身が一度野外調査で確かめたいとの気持ちを示された。なお、ご講演の結びは、「極地や高山で野外調査ができる人材育成が必要であり、これからの氷河研究に期待している」であった。



岩田修二氏の講演の様子

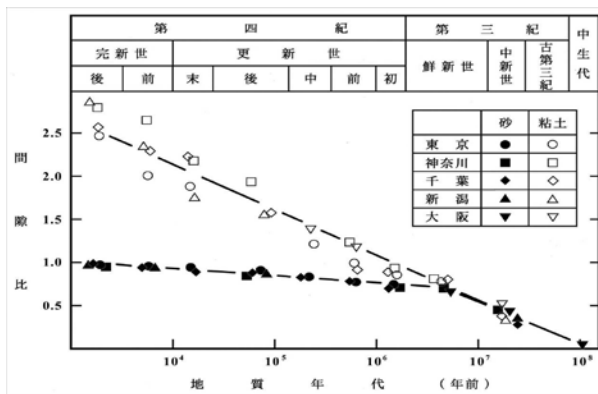
陶野郁雄氏講演の報告

千葉達朗（アジア航測株式会社・理事）

本稿では、当日のご講演の一部と現地調査でのエピソードを紹介したい。

【講演から】

今日では常識的であるが、陶野先生は、土の性質は同じ粒度組成でも年代とともに間隙比が変化するという点について、はじめて定量的な関係を明らかにした。この業績により、年代と粒径がわかれば、ある程度の物性を推定できることになった（図）。また、新潟県六日町など、長期間の地下水の揚水量と地盤沈下量の関係について測定整理し、融雪のための地下水使用が地盤沈下の原因であることを証明した。また、自動繰り返し圧密試験装置を使用して実験を行い、そのメカニズムを明らかにした。当日はこれらの話を簡潔に紹介されていたが、地盤工学の世界に第四紀的な見方を、第四紀学の世界に工学的な見方を取り入れた業績に改めて感銘を受けた。



陶野郁雄氏の講演において示された図。地質年代と間隙比の関係（陶野 1990. 大深度地下開発と地下環境. 鹿島出版会 . p.91 より）。

【陶野先生との出会い】

講演の中では現場の写真を使った話も多く、30年前にお会いして以降のエピソードがよみがえってきた。陶野先生は、地震発生直後の機動的な現地調査の草分けでもある。地震が起きる前から、車に積み込む持ち物から連絡先まで細かい調査マニュアルを作成するなど、何事においても準備を徹底していた。1983年日本海中部地震の後、第四紀学会で陶野先生の緊急現地調査の講演があった。津軽半島の車力村のパラボラ砂丘の内部で直径7mの巨大な噴砂孔が形成され、噴砂は電柱の高さ近くまで吹き上げたのだと言う。にわかには信じがたい現象である。しかし、周囲の地下水位が高く、中央の窪地表面が不透水性粘土で覆われ、地下水が被圧しやすい状況にあった。そこに地震が発生し液状化、被圧地下水とともに土砂が一気に噴き上げ、巨大噴砂孔が形成されたらしい。土砂移動現象の発生条件がよくわかっている地点で、イベント後に形成された地層を観察することは、過去の堆積物の観察をもって事実認定をしていく第四紀学にとって、重要な調査である。私も、1985～86年の現地調査に参加した。埋め立てられた噴砂孔のトレンチによる搜索から、大掛かりな排水による液状化領域の直接観察と試験や解析まで、まさに工学と理学の融合した調査であった。陶野先生は強力なリーダーとして地主との交渉、ユンボの手配、各種申請などまで、精力的にこなしておられた。

講演のスライドでは試料の粒径に関わる図も出てきたが、こんなこともあった。0.25φ間隔の篩を使用した砂の粒度を多数行い、分析結果を整理していくと、どのような堆積物でも、いつも特定の篩上残査の割合が多くなるという傾向が認められた。しかし先生の設計・特注した装置で篩の目開きの実測を行い、グラフを書き直してみると、重ねた加積曲線上の怪しい階段は見事に消えていた。このように陶野先生は、常に定量的で実証的であり、ものごとの本質にアプローチする姿勢として、非常に勉強になったことを覚えている。改めて学会賞の受賞をお祝い申し上げます。

◆日本地球惑星科学連合 2014 年大会プログラム

日本地球惑星科学連合 2014 年大会が、下記の日程で開催されます。年を経る毎に連合大会は学際的研究交流の場として重要度は増しており、2014 年大会の発表数は約 3400 件です。皆様の積極的な参加を期待しています。

- ・期日：2014 年 4 月 28 日（月）～ 5 月 2 日（金）
- ・場所：パシフィコ横浜会議センター（オーラル発表、ポスター発表ともに）
- ・大会詳細：<http://www.jpogu.org/meeting/meeting/index.htm>
（各セッションの日程と会場確認ができます）
- ・事前参加登録受付期間 2014 年 1 月 8 日（水）～ 4 月 16 日（水） 17:00

◆第四紀関係オーラルセッション（一部抜粋）

日時 * > セッション記号：セッション名（会場）

*AM1-1 ～ 1-2 = 9:00 ～ 10:45、AM2-1 ～ 2-2 = 11:00 ～ 12:45、PM1-1 ～ 1-2 = 14:15 ～ 16:00、PM2-1 ～ 2-2 = 16:15 ～ 18:00（昨年までと異なります）

（太字は第四紀学会開催セッション、下線は PAGES 関連セッション）

- 4 月 28 日 AM1-1 ～ PM2-2 > M-IS30：古気候・古海洋変動（501）
 4 月 28 日 PM1-2 ～ PM2-2 > A-CG33：中部山岳地域の自然環境変動（418）
 4 月 29 日 AM1-1 ～ PM1-2 > S-SS34：活断層と古地震（502）
 4 月 29 日 PM2-1 ～ PM2-2 > H-DS30：海底地すべり（511）
 4 月 29 日 AM1-1 ～ AM2-2 > S-GL42：地球年代学・同位体地球科学（419）
 4 月 29 日 PM1-1 ～ PM2-2 > A-CC32：氷床・氷河コアと古環境変動（419）
 4 月 30 日 AM1-1 ～ PM1-2 > O-06：日本のジオパークー見どころ紹介と新ジオパークの公開（メインホール）
 4 月 30 日 AM1-1 ～ PM1-1 > S-EM37：地磁気・古地磁気・岩石磁気（413）
 4 月 30 日 AM1-1 ～ PM2-2 > A-HW28：流域の水及び物質の輸送と循環ー源流域から沿岸域までー（314）
 4 月 30 日 AM1-1 ～ AM2-2 > H-SC25：人間環境と災害リスク（421）
 4 月 30 日 PM1-1 ～ PM2-2 > H-CG37：堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動（421）
 4 月 30 日 AM1-1 ～ PM1-2 > H-GM03：地形・Geomorphology（422）
 5 月 1 日 AM1-1 ～ AM2-1 > H-QR23：ヒトー環境系の時系列ダイナミクス（414）
 5 月 1 日 PM1-1 ～ PM2-1 > H-QR24：平野地域の第四紀層序と地質構造（313）
 5 月 2 日 AM1-1 ～ PM1-2 > M-IS31：総合的地球温暖化研究（511）
 5 月 2 日 AM2-1 ～ PM2-2 > M-IS35：ジオパーク（211）
 5 月 2 日 AM1-1 ～ AM2-2 > H-RE31：地球温暖化防止と地学（419）
 5 月 2 日 AM1-1 ～ PM2-1 > M-IS23：津波堆積物（415）
 5 月 2 日 PM1-1 ～ PM2-2 > S-GL44：下部ー中部更新統境界 GSSP（421）

◆ポスターセッションは、3 階ポスター会場で開催されます。ポスターは発表日に終日掲載され、コアタイムは 18:15 ～ 19:30 です。希望者にはポスター 1 件につき 3 分間の口頭説明時間が与えられます。

◆第四紀学会単独・主催セッション

3 月 11 日現在での暫定的発表プログラムを以下に記載します。紙面節約のため筆頭発表者のみ記されています。本稿作成段階にはプログラム編成中であり、確定したプログラムは 3 月 17 日に大会 Web で公開される予定です。オーラル発表数には限りがあるため、諸般の事由でポスター発表へ移動となるものもありますので、とくに発表者におかれましては最終プログラムをご確認くださいようお願い致します。

◆ H-QR23『ヒトー環境系の時系列ダイナミクス』オーラルセッション
：5 月 1 日（木）9:00 ～ 11:45（会場：414 会議室）

- 9:00-9:15 佐々木夏来ほか：八幡平火山群の大規模地すべり地における湿地の特徴と発達過程
 9:15-9:30 遠藤 涼ほか：木曾山脈の周氷河地形に適用した 2 つの年代測定法（宇宙線照射年代法、風化皮膜法）の比較
 9:30-9:45 吉田明弘：長野県広原湿原の花粉組成からみた最終氷期以降の森林限界の変遷
 9:45-10:00 奥野淳一ほか：第四紀および最近の海水準変動より推定される日本列島沿岸域の鉛直地殻変動

- 10:00-10:15 橋詰 潤ほか：中部高地黒曜石原産地近傍に位置する長野県広原湿原周辺における先史人類の活動
- 10:15-10:30 島田和高：長野県中部高地における先史時代黒曜石資源の利用と広原遺跡群の調査
- 10:30-10:45 久田健一郎ほか：南イラン、アルサンジャン地域の円錐形孔遺構中の風成層堆積物から淡水生珪藻の発見；世界最古の水場か？
- 10:45-11:00 < 休憩 >
- 11:00-11:15 山田圭太郎ほか：別府湾におけるイベント堆積物の定量検出
- 11:15-11:33 ポスター 3 分発表
1. 藤田ひかるほか：カワニナ遺物の酸素同位体比曲線に記録された沖縄県サキタリ洞遺跡での旧石器人の活動と夏期の温度条件
 2. 渡邊 慶ほか：猪苗代湖堆積物コアの全有機炭素・全窒素含有率変動を用いた過去 5 万年間の古気候・古環境解析
 3. 五十嵐隆亮ほか：薩摩半島のシラス分布域における侵食地形の発達過程と斜面崩壊の発生機構の関係
 4. 木越智彦ほか：日本列島の湖沼堆積物における過去 20 万年間の TOC 変動
 5. 野口真利江ほか：東京湾におけるカキ礁の形成過程と珪藻群集
 6. 白井正明：ダムでの土砂堆積が深海底の堆積作用に影響を及ぼす可能性

◆ H-QR23『ヒト—環境系の時系列ダイナミクス』ポスターセッション
：5月1日（木）18:15～19:30（会場：3階ポスター会場）

1. 藤田ひかるほか：カワニナ遺物の酸素同位体比曲線に記録された沖縄県サキタリ洞遺跡での旧石器人の活動と夏期の温度条件
2. 五反田克也ほか：沖縄県羽地内海から得られた堆積物を用いた琉球先史文化の環境史復元
3. 渡邊 慶ほか：猪苗代湖堆積物コアの全有機炭素・全窒素含有率変動を用いた過去 5 万年間の古気候・古環境解析
4. 滝澤みちるほか：MD179 海底コアの粒度変動からみた日本海上越沖とその周辺域における最終間氷期以降の環境変動
5. 五十嵐隆亮ほか：薩摩半島のシラス分布域における侵食地形の発達過程と斜面崩壊の発生機構の関係
6. 木越智彦ほか：日本列島の湖沼堆積物における過去 20 万年間の TOC 変動
7. 野口真利江ほか：東京湾におけるカキ礁の形成過程と珪藻群集
8. 白井正明：ダムでの土砂堆積が深海底の堆積作用に影響を及ぼす可能性

◆ H-QR24『平野地域の第四紀層序と地質構造』オーラルセッション
：5月1日（木）14:15～17:00（会場：313会議室）

- 14:15-14:30 七山 太ほか：風蓮湖バリアーシステムの地形発達史から読み解く根室海峡沿岸域の過去 5500 年間の海面変動と地殻変動
- 14:30-14:45 鈴木毅彦ほか：東北日本弧、山形盆地北部村山市浮沼における盆地地下堆積物とそれに含まれるテフラ
- 14:45-15:00 笠原天生ほか：米沢盆地北東部における盆地地下堆積物と第四紀後期テフラ
- 15:00-15:15 田村糸子ほか：テフラ対比に基づく千葉県銚子地域の鮮新—更新統、犬吠層群の堆積開始時期
- 15:15-15:30 中埜貴元ほか：利根川旧河道の地下比抵抗分布と地表の土壌水分率との関係
- 15:30-15:33 ポスター 3 分発表
1. 七山 太ほか：5 万分の 1 地質図幅「茂原」の概要
- 15:33-16:15 < 休憩 >
- 16:15-16:30 亀山 瞬ほか：2011 年東北地方太平洋沖地震時の液状化—流動化現象解明のための地層断面調査—地表変形状況・簡易貫入試験結果
- 16:30-16:45 重野聖之ほか：2011 年東北地方太平洋沖地震時の液状化—流動化現象解明のための地層断面調査—新 ACE ライナーを用いた地層断面調査方法
- 16:45-17:00 風岡 修ほか：2011 年東北地方太平洋沖地震時の液状化—流動化現象解明のための地層断面調査—人工地層の地質構造とメカニズム

◆ H-QR24 『平野地域の第四紀層序と地質構造』ポスターセッション
 : 5月1日(木) 18:15 ~ 19:30 (会場: 3階ポスター会場)

1. 小松原純子ほか: 勇払平野と支笏火砕流台地の上部第四系層序
2. 七山 太ほか: 5万分の1地質図幅「茂原」の概要
3. 石原武志ほか: 駿河湾北岸域の清水低地および三保半島における地下地質調査
4. 櫻井皆生ほか: ラビーンメント面を用いた構造運動像の復元: 大阪平野の表層地質の例

◆ S-SS34 『活断層と古地震』オーラルセッション
 : 4月29日(火) 9:00 ~ 16:00 (会場: 502会議室)

- 9:00-9:15 都司嘉宣ほか: 安政三年七月二三日(1856-VIII-23)北三陸沖地震の津波浸水高分布
 9:15-9:30 木股文昭ほか: 1945年三河地震による地域の被害再検討(1)死者の地域別分布
 9:30-9:45 鈴木比奈子ほか: SfMによる大正関東地震の石碑碑文の判読—千葉県南房総市巖島神社の石碑について
 9:45-10:00 金 幸隆ほか: 三浦半島南部の沖積谷底に分布する海成段丘から推定する関東地震の隆起
 10:00-10:15 北村晃寿ほか: 伊豆半島南端と清水平野沿岸部の地震性隆起
 10:15-10:30 渡辺満久: 福井県小浜湾沿岸の地殻変動と断層運動
 10:30-10:48 ポスター3分発表
 1. 安江健一ほか: 放射性炭素年代を用いた黒色土の層序対比と断層変位基準認定への活用
 2. 亀高正男ほか: 断層破碎帯の性状観察に基づく断層活動性評価手法の検討
 3. 竿本英貴ほか: RBF補間とGAを用いたLiDARデータからの地震時地表変位抽出手法の開発
 4. 佐藤智之ほか: 石狩低地東縁断層帯南部の海岸部における地質構造
 5. 高桑拳祐: 新潟—長野県境部、信濃川流域におけるテクトニクスの検討
 6. 岡田真介ほか: 山形盆地断層帯北部における反射法地震探査データ取得
 10:48-11:00 < 休憩 >
 11:00-11:15 大谷具幸ほか: 前期更新世までに活動を停止した断層における破碎帯と活断層破碎帯との比較
 11:15-11:30 加藤尚希ほか: 1586年天正地震を引き起こした阿寺断層の変形構造—鉱物組成—元素組成分析
 11:30-11:45 楠本成寿ほか: ディスロケーション解により基盤運動を制御する個別要素法を用いた堆積層の変形シミュレーション
 11:45-12:00 安藤広一: コンピュータシミュレーションを用いた櫛挽断層トレンチ側面で観察された地層変形の再現
 12:00-12:15 野村俊一ほか: 地震の再来間隔分布にかかる空間的変動と長期確率予測への影響
 12:15-12:45 ポスター3分発表
 7. Panayotopoulos, Yannis ほか: Investigating the role of the Itoigawa-Shizuoka tectonic line in the evolution of the Northern Fossa Magna rift basin
 8. 佐野実可子ほか: 糸魚川—静岡構造線南部セグメント周辺域の活断層詳細マッピング
 9. 福地龍郎ほか: 糸魚川—静岡構造線活断層系下円井断層及び鳳凰山断層のESR年代測定
 10. 中田英二ほか: 活断層最新活動面でのSEM観察—阿寺断層田瀬の林道露頭の例—
 11. 平松良浩ほか: 石川県熱野遺跡の噴砂痕と森本・富樫断層帯
 12. 井上卓彦ほか: 高分解能音波探査からみた福井県三方断層帯及び野坂断層帯海域部における活断層分布及び活動履歴
 13. 谷川 亘ほか: 南海トラフ地震の地震性変動評価と歴史地震災害規模の把握にむけた高知県沖の海底遺構調査
 14. 吉岡敏和ほか: 九州北部、小倉東断層および福智山断層帯の活動性調査
 15. 中村 衛: 1771年八重山津波の断層モデルの再検討
 16. Yan Bing ほか: Systematical deflections and offsets of stream channels along the left-lateral strike-slip Kunlun Fault
 12:45-14:15 < 休憩 >
 14:15-14:30 小松原 琢ほか: 石狩低地東縁断層帯の主部と南部の接合部の地質構造とその活動性
 14:30-14:45 阿部信太郎ほか: 高田平野西縁断層帯海域延長部における断層・褶曲分布について
 14:45-15:00 近藤久雄ほか: 糸魚川—静岡構造線活断層系の最新活動に伴う新たな古地震像
 15:00-15:15 石山達也ほか: 呉羽山断層の高精度反射法地震探査(音川測線)

- 15:15-15:30 楮原京子ほか：吉野ヶ里遺跡周辺の活断層
15:30-15:45 林 愛明ほか：中国四川盆地の巨大古地震と三星堆・金沙文明の滅亡
15:45-16:00 Wang Maomao ほか：Active thrusting beneath an alluvial terrace in the southern Longmen Shan range front, Sichuan basin, China

◆ S-SS34 『活断層と古地震』ポスターセッション
：4月29日(火) 18:15～19:30(会場：3階ポスター会場)

1. 安江健一ほか：放射性炭素年代を用いた黒色土の層序対比と断層変位基準認定への活用
2. 田中姿郎：活断層の表面組織の電子顕微鏡観察
3. 亀高正男ほか：断層破砕帯の性状観察に基づく断層活動性評価手法の検討－ 1. 調査露頭の選定－
4. 亀高正男ほか：断層破砕帯の性状観察に基づく断層活動性評価手法の検討－ 2. 断層面の形態観察、硬さと色調の評価－
5. 今泉俊文ほか：立体地形解析図上の活断層と地形面
6. 竿本英貴ほか：RBF 補間と GA を用いた LiDAR データからの地震時地表変位抽出手法の開発
7. 佐藤智之ほか：石狩低地東縁断層帯南部の海岸部における地質構造
8. 岡田真介ほか：山形盆地断層帯北部における反射法地震探査データ取得
9. 山口和雄ほか：福島県浜通りの地震で出現した地震断層の地下構造調査－塩ノ平地区での極浅部地震探査－
10. 石山達也ほか：立川断層帯・狭山神社地点のピット調査
11. 鈴木毅彦：立川断層帯を挟む 2 本のボーリングコアからみた武蔵村山市榎付近の地下構造
12. 高桑拳祐：新潟－長野県境部、信濃川流域におけるテクトニクスの検討
13. 田力正好ほか：高田平野南方、妙高火山群東麓周辺の変動地形とそのテクトニックな意義
14. Panayotopoulos, Yannis ほか：Investigating the role of the Itoigawa-Shizuoka tectonic line in the evolution of the Northern Fossa Magna rift basin
15. 佐野実可子ほか：糸魚川－静岡構造線南部セグメント周辺域の活断層詳細マッピング
16. 福地龍郎ほか：糸魚川－静岡構造線活断層系下円井断層及び鳳凰山断層の ESR 年代測定
17. 中田英二ほか：活断層最新活動面での SEM 観察－阿寺断層田瀬の林道露頭の例－
18. 平松良浩ほか：石川県熱野遺跡の噴砂痕と森本・富樫断層帯
19. 井上卓彦ほか：高分解能音波探査からみた福井県三方断層帯及び野坂断層帯海域部における活断層分布及び活動履歴
20. 八木雅俊：沿岸海域における活断層調査「三方断層帯および野坂断層帯」－高分解能地層探査結果－
21. 杉山雄一ほか：福井県美浜町沖における三方断層帯及び野坂断層帯海域延長部のボーリング調査
22. 三田村圭祐ほか：生駒断層帯に沿って産する断層露頭における断層ガウジの内部構造
23. 井上直人ほか：重力・磁気異常からみた大阪平野南部の密度構造
24. 池田倫治ほか：四国中央部の中央構造線活断層帯岡村断層の最新活動時期と変位量
25. 谷川 亘ほか：南海トラフ地震の地震性変動評価と歴史地震災害規模の把握にむけた高知県沖の海底遺構調査
26. 吉岡敏和ほか：九州北部、小倉東断層および福智山断層帯の活動性調査
27. 中村 衛：1771 年八重山津波の断層モデルの再検討
28. Yan Bing ほか：Systematical deflections and offsets of stream channels along the left-lateral strike-slip Kunlun Fault

◆ 2015 INQUA 名古屋大会の募金に関する訂正

第四紀通信 20 巻 6 号 (2013) にて、2015 INQUA 名古屋大会の募金のお願いを掲載致しましたが、募金受付口座の記載に不備がありました。以下のように訂正致しますので、下記口座まで募金のご協力をお願い申し上げます。

募金方法

(1) 銀行送金

募金受付用の銀行口座は下記の通りです。

銀行名：ゆうちょ銀行

支店名：〇一八（ゼロイチハチ）（店番号：018）

記号番号：10130

口座番号：53236691

口座名義：国際第四紀学連合第 19 回大会組織委員会

（コクサイダイヨンキガクレンゴウダイジュウキュウカイトイカイソシキイインカイ）

○ゆうちょ銀行の ATM から送金する場合

お持ちの通帳もしくはカードを使って、上記の記号番号（10130）と口座番号（53236691）を入力して下さい。

○ゆうちょ銀行の窓口から送金する場合

口座番号が「1」で始まる口座用の振込用紙（電信払込み請求書・電信振替請求書）に、上記の記号番号と口座番号（間の 1 桁の番号は不要）ならびに口座名義を記入して下さい。

○その他の銀行やコンビニの ATM から送金する場合

銀行名（ゆうちょ銀行）と支店名（〇一八（ゼロイチハチ））を選択し、口座番号を「5323669」（末尾の「1」を省略）と入力して下さい。

(2) 寄付金交付金制度

本国際会議は、日本政府観光局（JNTO）の寄付金交付金制度の利用承認を受けています。この制度を利用すると、寄付金に対する税制優遇措置を受けることができます。希望される方は、申請資料を郵送しますので、上記の事務局宛にメールでご連絡下さい。この制度の詳細については、日本政府観光局ホームページ（<http://mice.jnto.go.jp/>）でご確認頂けます。

組織委員会事務局：〒 305-8567 茨城県つくば市 1 丁目 1-1 中央第 7 事業所
産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター内
E-mail：2015inqua-sec-ml(at)aist.go.jp
電話：029-861-2489
国際第四紀学連合第 19 回大会組織委員会事務局

【参考】

1. 会議の名称とテーマ
名称：国際第四紀学連合（INQUA）第 19 回大会
テーマ：「第四紀学から見た気候変動、自然災害と文明」
2. 募金の名称 国際第四紀学連合第 19 回大会 寄付金
3. 募金予定額 600 万円
4. 募金額 1 口：1 万円（法人の場合は、1 口 5 万円）



AIQUA

Associazione Italiana per lo Studio del Quaternario



International Commission on Stratigraphy
Subcommission on Quaternary Stratigraphy

FIELD-WORKSHOP ON LOWER–MIDDLE PLEISTOCENE TRANSITION IN ITALY 11–13 October, 2014

Saturday 11 Oct.

At 11.00 a.m. beginning of field-workshop in the Department of Earth and Environmental Sciences, Campus, Bari University.

Scientific programme (11 a.m. to 6.00 p.m., with short lunch break from 1.00 p.m. to 2.00 p.m.):

- A. general lectures on Lower–Middle Pleistocene transition;
 - B. state of the art of the Italian L–M Pleistocene sections;
 - C. presentation of the field trip on the marine section in the Montalbano Jonico area;
 - D. presentation of the field trip on the marine section in the Valle di Manche area, Crotona Basin;
 - E. presentation of L–M Pleistocene continental sections.
- At 6.00 p.m. transfer by bus to the Montalbano Jonico area, expected arrival around 8.00 p.m.
 - Accommodation in hotel and dinner in Scanzano Jonico.

Sunday 12 Oct.

- At 7.30 a.m. – leave the hotel, short bus trip and arrival in Montalbano Jonico town at 8.00 a.m.;
- 8.15 a.m. – panoramic view of Montalbano section: illustration of the main features of the succession from some different observation points;
- 9.30 a.m. – transfer by bus to the base of the stratigraphic section in which the L–M transition is better exposed: detailed description of the more important physical, paleontological and geochemical characters of the “Ideal Section”.
- Between 1.30 p.m. and 3.30 p.m. – lunch in a typical restaurant.
- At 3.30 p.m. – transfer by bus to the continental Sant’Arcangelo section;
- 4.30 p.m. – general view and illustration of the main features of the Pleistocene lacustrine deposits of Sant’Arcangelo Basin.
- About 5.30 p.m. – transfer by bus to Crotona town; expected arrival around 8.00 p.m.; accommodation in hotel and dinner.

Monday 13 Oct.

- at 8.00 a.m. – leave the hotel, bus transfer to the area of S. Mauro Marchesato village, about 35 km west of Crotone; expected arrival around at 9.00 a.m.;
- Walking trip for about 45 minutes up to the Valle di Manche section: detailed description of its more important physical, paleontological and geochemical characters;
- Around 12.30 a.m. – return to the bus and short trip towards Crotone; a lunch is planned near the town;
- About 4.00 p.m. – bus trip back to Bari with expected arrival around 8.30 p.m.; returning the participants to the hotel.

The Organizing Committee will provide information on the nearest University campus hotels to all participants interested in lodging in Bari before the Workshop, and/or after the field trip. The field trip will make use of minibuses; the maximum number of participants to the fieldtrip is limited to 30/33 people.

Please send an Email to nericiaranfi@yahoo.it and adele.bertini@unifi.it no later than March 1st, 2014 for Pre-registration to the Field-Workshop.

By May 30th 2014, a second circular will be sent to all pre-registrants together with the indication of the amount of the fees to be paid for registration.

Pre Application form

I am interested in applying for the *Field-Workshop Lower-Middle Pleistocene transition in Italy* planned for October 11th-13th, 2014

Name
Institution.....
Address E-Mail
Telephone and Fax Number
Country

I will arrive (please select the option with "X")

on October 10th and leave Bari on Oct. 13th

on October 11th and leave Bari on Oct. 13th

I would like to have (please select the option with "X"):

a single room reserved

a double room reserved (please let us know the names of both visitors)

.....

for the nights from October to October

The fees consist of 320 Euros (275 Euros if you arrive on 11th and are all inclusive:coffee break, lunch, dinner, lodge, bus transfer) for the entire Field-Workshop (from the evening October 11th to the afternoon October 13th).

The cost of dinner and lodge of October 13th is not included in the fees. If you are unable to leave Bari on evening October 13th we may reserve your room for one additional night at the price of ca 45 Euros (your expense).

The fees (320 Euros, or 275 Euros if you arrive in Bari the morning of Oct.11th) will be reduced in case we can get financial support, which we will let you know within the end of May.

As already indicated in the enclosed First Circular, the **Final application form** (available for you after your Pre-application) has to be sent together with the payment of the fees within June 30th.

Please send the Pre Application form to nericiaranfi(at)yahoo.it and to adele.bertini(at)unifi.it within March 1st.

◆メーリングリスト登録についてのお願い

日本第四紀学会では、会員の皆様に迅速に情報を提供する目的で、会員メーリングリストを設けております。会員メーリングリストに登録すると、大会や各種イベントに関する情報、公募情報などを受取ることができます。

また、会員に向けて情報を送りたい場合には、広報幹事（齋藤めぐみ：memekato(at)kahaku.go.jp）までご相談ください。

*現在メーリングリストを介して学会からの電子メール連絡を受信されている方へ
そのまま継続して電子メール連絡を希望される場合は、事務局への連絡は不要です。
学会からの電子メール連絡が不要でメーリングリスト登録を辞退される場合は、その旨を事務局へご連絡ください。
異動などによりメールアドレスが変更になったときには早急に事務局へご連絡ください。不達メールが多く見受けられます。

*現在メーリングリストを介して学会からの電子メール連絡を受信されていない方へ
メーリングリストへの登録を希望される場合は、氏名、所属、メールアドレスを明記の上、電子メールにて事務局へご連絡ください。

*新規入会の方へ
今後は、入会申込書に書かれたメールアドレスをメーリングリストへ登録させていただきます。
メーリングリストを使った学会からの電子メールの受信を希望されない方は、その旨、事務局へお伝えください。また、入会申込のためには、必ずしも、メールアドレスの登録は必要ありません。

日本第四紀学会事務局の連絡先

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 ラムダックスビル10階

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176

◆2013年度第2回評議員会議事録

日時：2014年2月2日（日）15：00～17：00

場所：日本大学文理学部3号館「3202」教室

出席者：小野 昭（会長、評議員）、吾妻 崇、池田明彦、卜部厚志、岡崎浩子、奥村晃史、工藤雄一郎、小荒井 衛、斎藤文紀、須貝俊彦、鈴木毅彦、高原 光、竹村恵二、辻 誠一郎、陶野郁雄、長橋良隆、中村俊夫、藤原 治、松浦秀治、水野清秀、宮内崇裕、渡邊眞紀子（以上、評議員）、遠藤邦彦（前会長）、小森次郎、米田 穰（以上、幹事）、中野利洋（事務局）

小森次郎行事・企画幹事の司会で、小野会長のあいさつの後、松浦秀治評議員を議長に選出した。定足数確認（出席者22名、委任状14通）後、配布資料に基づき、下記の報告・審議が行われた。

報告事項

1. 2013年度事業中間報告

関係幹事・委員から以下の報告が行われた。

1-1. 庶務（庶務幹事：北村晃寿〔庶務〕、佐藤宏之〔顕彰〕）

1) 会員動向（2014年1月31日現在）：正会員1292名（うち学生・院生会費会員79名、海外会

員12名を含む）、名誉会員16名、賛助会員11社。

2) 総会・評議員会・幹事会の開催：2013年度第1回評議員会を2013年8月22日に弘前大学教育学部で開催した（出席者20名、委任状20通。議長：里口保文会員）。2013年度総会を2013年8月23日に弘前大学教育学部1階大教室で開催した（出席正会員数70名、委任状191通、（名誉会員1名）、議長：中村俊夫会員）。幹事会は、2013年8月22日、10月12日、12月1日、2014年2月2日と計4回開催した。

3) 放射性廃棄物地層処分に関する経済産業省、総合資源エネルギー調査会臨時委員の推薦依頼について、第1回評議員会にて遠藤邦彦前会長を推薦することの承認を得、推薦文を提出した。

4) 公益財団法人未来工学研究所より依頼のあった「学協会における科学技術研究の多様性の確保についての調査」に対応した。

5) 地盤工学会より、地盤工学会賞推薦依頼があり、対応した。

6) 国際土壌科学会議(IUSS)のDivision, Commission of the Chair, Vice-Chair 選挙への投票依頼があり、幹事会で対応した。

7) 下記7件の転載許可申請に対して、許可を行った。

- ・井上 淳会員から「井上 淳・北瀬 (村上) 晶子 (2010) 湖沼堆積物中の燃焼痕跡物として記録された後氷期の間活動、第四紀研究, 49, 173-180」の図 4 の転載許可申請 (予定転載先: 井上 淳ほか、地質学雑誌)。
 - ・大手前大学から「春成秀爾・小野 昭・小田静夫、日本第四紀学会編 (1992) 「図解・日本の人類遺跡」東京大学出版会」の p.185 図、p.186 図、p.171 図、p.187 図の転載許可申請 (予定転載先: 大手前大学 e ラーニング科目「考古学の世界」)。
 - ・林 義勝氏 (明治大学文学部長) から「嶋田 繁 (2000) 伊豆半島、カワゴ平火山の噴火と縄文時代後～晩期の古環境、第四紀研究, 39, 151-164」の図 2 の転載許可申請 (転載先: 『明治大学文化財研究施設の黒曜石研究』(仮題)、明治大学文学部)。
 - ・志知幸治氏 (森林総合研究所) から「五十嵐八枝子 (2010) 北海道とサハリンにおける植生と気候の変遷史—花粉から植物の興亡と移動の歴史を探る—、第四紀研究, 49, 241-253」の図 3 (属種名と層相を和名に変え、花粉帯を削除) の転載許可申請 (転載先: 『教養としての森林学』第 5 講、日本森林学会監修)。
 - ・地質工学会関東支部から「山崎晴雄・水野清秀 (1999) 国府津・松田断層の最新活動史と地震テクトニクス、第四紀研究, 38, 447-460」の転載許可申請 (転載先: 『関東の地盤 (2013 年度版) (仮称)』、さらにその二次的利用 (書籍電子化して付録 DVD に収める))。
 - ・永塚鎮男会員から「松井 健・加藤芳朗 (1962) 日本の赤色土壌の生成時期・生成環境にかんする二、三の考察、第四紀研究, 2, 161-179」の図 4・5 (まとめて一つの図に改変) の転載許可申請 (転載先: 永塚鎮男『土壌生成分類学・改訂増補版』、養賢堂)。
 - ・(株) 啓林館中学校理科編集部から「東四国の自然を楽しむガイドブック」の写真「土柱 火山灰の層」の転載許可申請 (転載先: 中学校理科教科書)。
- 8) 下記 3 件の共催・後援依頼を了承した。
- ・富士学会より、2013 年秋季学術大会後援依頼。
 - ・社会地質学会より、第 23 回環境地質学シンポジウムの共催依頼。
 - ・第 18 回「震災対策技術展」横浜 後援名義使用許可申請。
- 9) 「地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会」へ参加申請し、承認された。斎藤文紀会員と植木岳雪会員が担当することとした。
- 10) 学会賞・学術賞候補者選考委員会委員の選挙を行い、下記の方々が委員に選出された。
- 海津正倫 (地理学)、高原 光 (植物学)、杉山雄一 (地質学)、中村俊夫 (地球化学)、河村善也 (古生物学)
- 11) 論文賞・奨励賞候補者選考委員会委員の選挙を行い、下記の方々が委員に選出された。
- 横山祐典 (地球化学)、三田村宗樹 (地質学)、苅谷愛彦 (地理学)、里口保文 (地質学)、近藤 恵 (人類学)

- 12) 2014 年学会賞・学術賞、論文賞・奨励賞の推薦募集を行った (2014 年 1 月 31 日締切)。
- 13) 計 8 件のパンフレット等学会への連絡物があった。

1-2. 編集 (編集幹事: 卜部厚志、藤原 治)

- 1) 編集委員会を 2013 年 9 月 28 日 (第 1 回)、11 月 16 日 (第 2 回)、2014 年 1 月 25 日 (第 3 回) に開催した。
- 2) 第四紀研究第 52 巻第 5 号 (寒川 旭会員学術賞記念論文、論説 2 編、総説 1 編、50 頁)、第 6 号 (論説 1 編、短報 1 編、書評 2 編、30 頁) を刊行した。第 52 巻の総頁数は 270 頁である。第 53 巻第 1 号 (兵頭政幸会員学術賞記念論文、論説 2 編、短報 1 編、73 頁) を編集した (2 月上旬刊行予定)。第 2 号は現在編集中 (成瀬敏郎会員学術賞記念論文、短報 1 編、講座 2 編) である。
- 3) 奥野 充会員より、中村俊夫会員による 2012 年学会賞受賞記念論文受賞論文と合わせて、炭素年代測定関係の論文を集めて特集号とする企画が提案され、編集体制とタイムスケジュール等について詰めることを条件に承認した。
- 4) 弘前大会特集号の編集委員会の構成 (予定): 檜垣大助 (弘前大学)、北村 繁 (弘前学院大学)・亀井 翼 (弘前大学)・小岩直人 (弘前大学)。編集幹事 2 名がこれに加わる。特集号は 7 編で、53 巻 4 号を予定している (1/29 現在 4 編が投稿済)。
- 5) 2013 年の投稿数は合計 38 編 (論説・短報 14、特集号 4、受賞記念論文 5、講座 7、書評など 6) であった。2012 年は合計 27 編 (論説・短報 14、特集号 5、受賞記念論文 3、書評など 5) であった。1 月 29 日現在の手持ち原稿は、17 編 (論説・短報 11、受賞記念論文 1、講座 5) である。
- 6) 「日本第四紀学会編集委員会規定の一部改定」(電子付録など) を平成 26 年 1 月 1 日から施行した。

1-3. 会計 (会計幹事: 岡崎浩子)

- 1) 各研究委員会へ予算を達達した。
- 2) アルバイト代を時給 1000 円に一元化することとした。

1-4. 広報 (広報幹事: 齋藤めぐみ)

- 1) 洪積層に関わる Q and A の対応を確認した。
- 2) ホームページの名誉会員の記述を更新した。
- 3) 研究委員会の最新活動を学会 HP へ掲載した。

1-5. 渉外 (渉外幹事: 吾妻 崇、宮内崇裕)

- 1) テフラ火山研究委員会の会場でのデジタルブックの交換・販売ならびに今年の大会予稿集の販売実績は、以下の通りである。
デジタルブック 交換 10 部、販売 14 部、予稿集 販売 11 冊。
- 2) 2014 年地球惑星科学連合大会において第四紀学会は以下のセッションを提案し、承認された。
 - ・ヒト—環境系の時系列ダイナミクス (地球人間圏) 第四紀学会単独開催
 - ・活断層と古地震 (固体地球科学) 第四紀学会・地震学会・活断層学会主催

- ・平野地域の第四紀層序と地質構造(固体地球科学) 第四紀学会・地質学会主催
- ・ジオパーク(領域外・複数領域) 第四紀学会・地質学会・地理学会共催
- ・津波堆積物(領域外・複数領域) 第四紀学会・堆積学会・地質学会・地震学会・地理学会共催
- ・人間環境と災害リスク(地球人間圏) 地理学会主催、第四紀学会・地図学会・火山学会・地理情報システム学会・地質学会・活断層学会・連合環境災害対応委員会共催

3) 自然史学会連合関係

12月22日自然史科学学会連合年次総会(東大ミュージアムホール)が開催された。自然史連合主催講演会が11月23日(日)、ミュージアムパーク茨城県自然博物館で開催予定(タイトル:過去に学び、現在を識り、未来を測る、基本方針:ワークショップ+講演会)。テーマが決定次第、講演者の推薦および学会紹介ブース設置の意志確認を行う。

4)「地質の日(5月10日)」事業推進委員会関係(事務局:産総研)

平成26年度「地質の日」事業として、今後活用できるポスター募集を行った(12月25日締切)。選考後、審査結果が地質の日事業推進委員会 Web サイトで公表される予定。

1-6. 行事・企画(行事・企画幹事:出穂雅実、小森次郎、米田 穰)

1) 2013年学会賞受賞者講演会を2014年2月2日に日本大学文理学部で開催する。

・講演者・講演タイトルは岩田修二会員「転向点にたつ氷河地形研究」と陶野郁雄会員「砂と粘土の四方山話—理学、工学、それとも理工学—」。

2) 学会賞の海津正倫会員、学術賞の久保純子会員、中川 毅会員には、6月7日に名古屋大学にて講演会を開催する予定で調整中である。また、第3回評議員会を同日に開催予定である。

3) 2014年大会の計画

◆日程:9月6日(土)~8日(月)

◆会場:東大柏キャンパス。3日間・3会場でシンポジウムセッションと一般研究発表を開催。

◆スケジュール案:

1日目 午前30講演。昼過ぎポスターコアタイムに1時間。続いて午後30講演。

2日目 午前24講演。昼前に総会と学会賞表彰。午後30講演。

3日目 午前30講演。昼過ぎポスターコアタイムに1時間。続いて午後24講演。閉会式、学生賞発表。口頭発表は全174講演を想定。

◆シンポジウムセッション:INQUAの5つのコミッションに対応した5つのセッション群をそれぞれ1日程度開催の予定(具体的なセッション数は未定)。したがって3日間を通して、3会場のうち1会場ないし2会場をシンポジウムセッションとして使用の予定。現在、コミッション代表者に呼びかけ中(SACCOMからは回答済み)

◆役割分担

実行委員長:辻

プログラム委員長:横山、プログラム委員:阿部
会場:川幡、懇親会:小口

1日巡検:田村(つくば)・横山(柏)

INQUA・第四紀学会対応:斎藤(INQUA組織委員会委員長)

事務局長:須貝

(このほかの増員や学生・院生等の手伝いについては4月以降に調整)

◆その他

・9月9日(火)柏・つくば年代測定施設等見学ツアー

・予稿集は1ページ(従来のものよりも文字や余白を小さくして文字数を増やす。幹事会にて詳細を検討する)。図あり。手書き申し込み可。

4) 2015年大会会場について意見交換し、8月後半から9月前半に開催することとし、千葉大学園芸学部、千葉科学大学、早稲田大学に開催を打診することとした。

5) 講演要旨集はダンボール1箱を保管することとした。

1-7. 特別委員会報告

1) 選挙制度検討委員会(事務局:水野清秀幹事長)

2013年度第1回評議員会において、選挙制度検討委員会の設置が承認され、下記項目の検討を行い2013年度内に答申を提出することとした。

・分野別会員数と評議員定数の検討、とくに会員数20名以下の分野の評議員数の検討。

・現行選挙制度の検討。投票率を上げるための方策、会長・副会長の選出方法、推薦または立候補制の可否、等。

幹事会の推薦・承認により次の5名の会員からなる委員会を立ち上げた:北田奈緒子(地域地盤環境研、地質学分野)、高田将志(奈良女子大学、地理学分野)、中島 礼(産総研、地質学分野)、兵頭政幸(神戸大学、地球物理学分野)、堀 和明(名古屋大学、地理学分野)。水野幹事長を加えた電子メール会議により、現在、意見交換を進めている。

2) 会員サービス向上検討委員会(事務局:水野清秀幹事長)

2013年度第1回評議員会において、会員サービス向上検討委員会の設置が承認され、下記項目の検討を行い2013年度内に答申を提出することとした。

・会員を増やすための方策。

・大会や会誌充実のための方策。

・日本第四紀学会会員であることのメリットをアピールする方策。

幹事会の推薦・承認により次の5名の会員からなる委員会を立ち上げた:熊原康博(広島大学、地理学分野)、竹村恵二(京都大学、地質学分野)、田村糸子(JAEA、地質学分野)、松浦秀治(お茶の水女子大学、人類学分野)、三浦英樹(極地研、土壌学分野)。2014年2月1日に明治大学において第1回目の会合を開催し、検討項目や議論の進め方などについて確認を行った。

1-8. 国際第四紀学連合第 19 回大会組織委員会報告 (委員長：斎藤文紀、事務局長：吾妻 崇)

2013 年度上半期(2013 年 8 月～2014 年 1 月)活動報告

組織委員会幹事会を 2 回(第 13 回：2013 年 10 月 12 日、第 14 回：12 月 1 日)開催し、プログラム編成、巡検コースおよび案内者、学協会・自治体等への協力依頼、大会ホームページの公開等について検討した。セッションの公募と大会ホームページの内容については、INQUA 執行部の名古屋大会のプログラム委員会委員長 Allan Chivas 氏(INQUA 前会長)と連絡を密にとりながら進めている。大会ホームページについては、2013 年 10 月に日本語サイトを公開し、日程、会場、大会運営組織等に関する情報を掲載している。学術プログラムについては、セッション提案受付を 2014 年 1 月に開始し、大会ホームページで公開するとともに、INQUA のホームページや 5 つの委員会を通じて関係者に通知したほか、国内の協力学協会にセッション提案を依頼する案内を発送した。セッション提案については、2014 年 3 月末日まで受け付ける。募金委員会では、会員からの募金をお願いするための口座を開設し、「第四紀通信」に協力依頼文を掲載した。その他に、INQUA に関する記事を第四紀通信に連載するとともに、大会準備以外の活動として、“Quaternary International”日本特集号の出版の承認を得て、原稿募集の作業を開始した。

[参考：今後の主なスケジュール]

- 2014 年 2 月 2 日 第 15 回組織委員会幹事会開催
- 2014 年 3 月 31 日 セッション提案締切
- 2014 年 7 月 参加登録、要旨投稿、
巡検申込み受付開始
- 2014 年 12 月 20 日 要旨投稿締切
- 2015 年 2 月 28 日 早期参加登録締切

1-9. 第 22 期日本学術会議地球惑星科学委員会 INQUA 分科会報告 (分科会委員長：奥村晃史)

- 1) 2014 年度は 2015 年第 19 回 INQUA 名古屋大会組織委員会での活動を中心としたため、分科会独自の活動は行わなかった。
- 2) 2014 年 1 月 11 日に第 22 期・第 4 回分科会を開催した。主要な報告・議事は以下の通りである。
 - ・平成 25 年度の活動報告。(1) 第 1 回国際層序学会議(リスボン)へ奥村晃史派遣、(2) IUGS 分科会から国際層序委員会第四紀サブコミッション voting member に斎藤文紀を推薦、(3) 2015 年 INQUA 大会に向け養老川セクションを中部更新統基底 GSPP(国際境界模式層断面と断面上のポイント)候補として提案準備の進行状況。
 - ・2015 年第 19 回 INQUA 名古屋大会の準備状況報告、セッション公募開始。
 - ・INQUA 執行委員会(2014 年 2 月開催：ローマ)対応について
 - ・今後の INQUA 分科会(22 期)の活動について、第四紀学会 2014 年大会支援。

2. 2013 年度会計中間報告

岡崎浩子会計幹事より、資料に基づき 2013 年 12 月 31 日現在での収支会計中間報告が行われた。収入の部では、会費収入が 960 万円弱、そのほか要旨集売上 24 万円、2013 年大会余剰金 27 万円、デジタルブック最新第四紀学 CD 販売収入 19 万円などで合計 1092 万円ほど。また支出では、第四紀研究及び第四紀通信 3 号分の発行費としてそれぞれ 149 万円、43 万円ほど、デジタルブック最新第四紀学追加出版費 58 万円などで、支出の合計は 596 万円ほどである。

審議事項

1. 名誉会員候補者選考委員会委員の決定

下記 5 名の会員を名誉会員候補者選考委員とすることが幹事会(水野幹事長)から提案され、審議の結果、承認された。

- 久保純子(地理学)、小池裕子(人類学)、
- 辻 誠一郎(古生物学)、山崎晴雄(地理学)、
- 渡邊真紀子(土壌学) <以上、50 音順>

2. 法務委員会規定の一部改正について

日本第四紀学会会則の一部改正に伴い、条項の番号が変更になったが、日本第四紀学会法務委員会規定がその改正に対応していなかったため、下記のように改正することが幹事会から提案された。審議の結果、改正案は承認された。ただし、法務委員会規定の文章表現になお不備があるため、再度幹事会にて検討することとなった。

<現行>

(目的)

第 1 条 本規定は、日本第四紀学会会則第 6 条 4、第 14 条の 1に基づき、会員による研究結果の捏造・改ざん・盗用・研究費の不正使用等の不正行為等に適切に対処するための組織、申し立て及び除名等に関する手続き及び権限等について規定するものである。・・・

<改正案>

(目的)

第 1 条 本規定は、日本第四紀学会会則第 6 条 4、第 15 条の 1に基づき、会員による研究結果の捏造・改ざん・盗用・研究費の不正使用等の不正行為等に適切に対処するための組織、申し立て及び除名等に関する手続き及び権限等について規定するものである。・・・

3. 研究委員会内規の一部改正について

日本第四紀学会会則の一部改正に伴い、条項の番号が変更になったが、日本第四紀学会研究委員会内規がその改正に対応していなかったため、下記のように改正することが幹事会から提案され、承認された。

<現行>

1. 研究委員会は、会則第 17 条に基づく特別委員会の一種で、第四紀学の特定の研究課題についての国内・国外の情報を交換し、研究を推進するためのグループである。・・・

<改正案>

1. 研究委員会は、第四紀学の特定の研究課題についての国内・国外の情報を交換し、研究を推進するためのグループである。・・・

【参考資料】

日本第四紀学会会則（抜粋）

第6条

4. 会員が不正行為等を行った場合には、法務委員会の議により除名あるいは会員の資格停止等の処分を受けることがある。また、会員は不正行為等があったとする申し立てを行うことができる。なお、これらの細則は別に定める。

第15条

本会に、不正行為等の疑義のある会員に対して裁定を行う法務委員会を置く。

2. 本会に特定の研究を推進する研究委員会を置く。
3. それぞれの細則は別に定める。

4. その他

- ・ 評議員の委任状に、「評議員会における議決行使に関する一切の件を私は議長を代理人と定め委任します。」という表現があるが、これは、欠席した複数の評議員が議長に委任した場合に、「出席した評議員は2名以上の欠席した評議員の委任を受けることはできない。」とする会則第13条2項に違反しているという指摘がなされた。委任状の表現を今後幹事会で検討することにした。
- ・ 会員のうち連絡先不明者のリストを評議員に配布し、情報提供を呼びかけた。

◆ 2013年度第4回幹事会議事録

日時：2014年2月2日（日）12:00～13:00

場所：日本大学文理学部3号館「3202」教室

出席者：小野、奥村、斎藤文紀、吾妻、卜部、岡崎、小森、藤原、水野、宮内、米田、中野（事務局）

- 1) 第2回評議員会の段取りを確認した。
- 2) 今年度2回目の学会賞・学術賞受賞者講演会を6月7日（土）午後に名古屋大学において開催

することにした。あわせて同日に評議員会を開催する方向で調整することにした。

3) 2014年功労賞候補者について会員、非会員からそれぞれ最終候補者を選出した。

4) 第四紀研究・第四紀通信の発行数を会員の減少にあわせて減らすことにし、第四紀研究1,500部、第四紀通信1,400部とすることに決定した。

◆ "Paleoseismology, Active Tectonics and Archaeoseismology"
5th International Meeting (2014.9.21-9.27, 韓国)のご案内 (第2報)

前号の「第四紀通信」に掲載しましたINQUAのTERPROに属するプロジェクト "Paleoseismology, Active Tectonics and Archaeoseismology" の5th International Meeting (2014年9月21日(日)～9月27日(土):韓国・釜山)のホームページが開設されました。

参加登録、予稿投稿、参加料支払い、学生への旅費補助は、全て5月31日(土)が締め切りとなっております。セッションや巡検といった会合の概要につきましては前号に掲載した通りですが、申し込み方法等の詳細につきましては大会ホームページ(<http://www.pata-days.org/>)をご参照下さい。

関係分野のみなさまのご参加をお待ちしております。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事: 齋藤めぐみ (memekato(at)kahaku.go.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 国立科学博物館 地学研究部 齋藤めぐみ
〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1 FAX: 029-853-8998

広報委員: 那須浩郎・糸田千鶴 編集書記: 岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com 電話: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176